

尾道市立瀬戸田小学校

日時	平成 24 年 10 月 17 日 (水) 第 5 校時
学年組 人数	第 6 学年 1 組 男子 18 名 女子 18 名 計 36 名
場所	6 年 1 組 教室

領域 B 鑑賞 (1)
 題材名 「顔」に遊ぶ
 ~聞いて感じて表して~

1 題材について

本題材は、我が国や諸外国の親しみのある美術作品を鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること、感じたことや思ったことを話したり、友だちと話し合ったりするなどして、表現の意図や特徴などをとらえることをねらっている。また本題材は、「初めの鑑賞 表現 終わりの鑑賞」という一連の活動を通して、「顔」への思いを対象とした「表現」と「鑑賞」を一体的に学習する内容である。「初めの鑑賞」活動では、ピカソ・ゴッホ・写楽・奈良美智の描いた「顔」から聞こえる「声」を切り口に形や色に触れる。「表現」活動では、まず自分がとらえた画家特有の形と色による感情表現の方法を経験する。そして、自分の捉えた画家特有の表現方法を用いて、画家になりきって「自画像」に取り組む。「終わりの鑑賞」活動では、友だちの作品や画家の作品のよいところなどを発表し合いながら、形や色による表現について振り返る。これらの活動を通して、児童は、形や色などの組合せにより様々な表現方法が可能になることに気付く。そして、写実的な表現以外にも、多様なすばらしい表現ができることを知り、見る楽しさや表現する楽しさを一層感じ、絵画の見方を広げることができると思う。

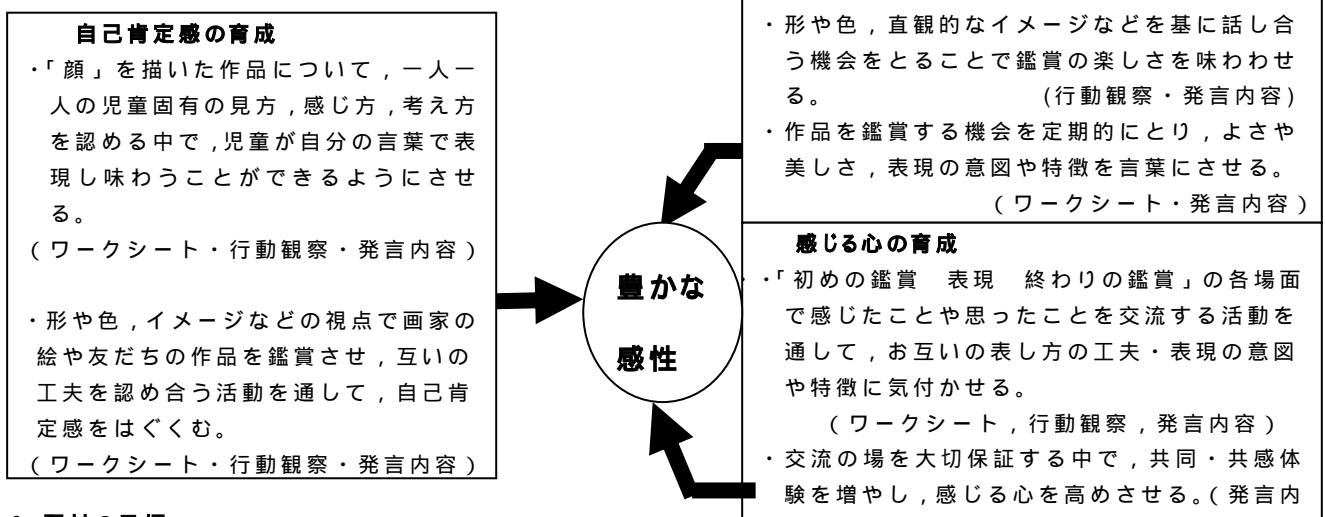
本学級の児童は、画家の絵を対象に表現と鑑賞を一体化した学習をするのは 2 度目の経験である。1 学期の題材「『海』に遊ぶ」で取り組んだ「表現」と「鑑賞」を一体化した授業前と授業後のアンケートでは、次のように答えている。「とても楽しい/楽しい」と答えた児童は、次の通りである。(授業前 4 月, 授業後 5 月)

(1) 「絵や友だちの作品を見る」ことについては、授業前 84%, 授業後 89%

(2) 「見た作品について感じたことを友だちに話す」ことについては、授業前 56%, 授業後 86%

授業後に新たに「楽しい」と答えた児童に、その理由を聞いたところ「友だちと話し合うと感じ方が人によって違って面白かった。」と答えた。本題材の表現場面では、児童がとらえた画家の「顔」のイメージを自分なりに表現することで、美術作品に対する見方を深め、親しみを覚えると思う。児童は同じテーマで創作した作品にも個性が表れることや、感じ方も人によって違いがあることに気付き、児童一人一人の固有の思いや表現の素晴らしさを感じ取ることができる。友だちと話し合うことに苦手意識をもっている児童は、ポートフォリオを基に自らの成長や伸びを感じ、自己肯定感を感じる中で話し合い活動への喜びを感じ、より一層お互いのよさを感じ取ることができると思う。

2 研究テーマとかがわった指導の手立て () は主な評価方法



3 題材の目標

造形への 関心・意欲・態度	自分なりの見方・感じ方・考え方から、自分の言葉で表現し、味わおうとしている。
発想や構想の能力	形や色などに親しみながら自分の表現したいものを思い付くことができる。
創造的な技能	思い付いたことを基に、形や色、組合せを生かした表現を工夫して「顔」を表すことができる。
鑑賞の能力	美術作品や自分たちの作品について話し合うことで、画面構成や、形や色、組合せを生かした表現のよさや工夫に関心をもつ。

尾道市立瀬戸田小学校

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
イメージを膨らませて「顔」の表現の工夫をしたり、お互いの作品のよさを楽しんだりしている。	自分の表現したい「顔」について、形、色、動きなどを生かして、発想を広げている。	自分のイメージに合った技法や材料・用具を選んで「顔」の表現に生かしている。	画家や自分たちの作品について、形、色、動き、それらの組合せを生かした表現のよさを感じている。

5 学習指導計画(全7時間)

- 第一次 画家の「顔」をテーマに描いた作品を鑑賞して気付いたことをまとめる。 (1時間)
- 第二次 形や色、動きなどの組合せを工夫して「顔」の作品を表現する。 (4時間)
- 第三次 自分たちの表現した「顔」をテーマにした作品を鑑賞し合う。 (1時間)
- 第四次 「顔」をテーマに表現した作品について、感じたことを交流する。 (1時間 本時)

6 本時の目標

画家や自分たちの「顔」の作品について、形や色、動きを手掛かりに感じたことを交流する。

<鑑賞(1)ア・イ>

7 本時の展開 指導すべき点(しっかり) 思考力(じっくり) 発信力(はっきり)

学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
<p>1 本時の学習内容の把握</p> <p>形や色、動きを手掛かりに美術作品や自分たちの作品のよさを交流するというねらいをはっきりもつ。</p> <p>本時のめあてを確認し、見直しをもつ。</p>	<p>自分たちが「顔」を表現した上で、再び本時で美術作品や自分たちの「顔」の表現について意見を交流することを伝え、学習の見直しをもたせるようにする。</p>	
<p>「顔」を表現した作品について、形や色、動きを手掛かりに感じたことを交流しよう。</p>		
<p>2 表現の工夫</p> <p>「顔」を表現した自分たちの作品製作にあたり、とらえた「思い」を交流する。</p>	<p>「顔」を表現した作品の工夫点を、「形」「色」「動き」等の視点で話し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作品の表現の工夫について振り返り、美術作品の「顔」の表現から参考にした点や自分なりに感じた「思い」などを発表させる。 ・互いの感想を一齐に交流できるように、教室の環境整備やワークシートの工夫を行う。 	<p>鑑賞の能力</p> <p>「顔」の美術作品について、形、色、動きや、それらの組合せを生かした表現のよさを感じている。</p> <p>(発言内容・ワークシート)</p>
<p>3 友だちとの交流</p> <p>互いの選んだ「顔」の作品について形や色、動きを手掛かり感じたことを交流する。</p>	<p>「顔」の気に入っている点を友だちに紹介させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な視点で交流できるようにさせる。 <p style="text-align: center;">【ペアトーク】</p> <p>自分たちのとらえた顔への「思い」と照らし合わせながら、「顔」を表現した美術作品を鑑賞して感じ取ったことや考えたことを交流させ、考えを深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「顔」を表現した美術作品を改めて鑑賞し、すばらしさを感じ取らせる。 ・「顔」を表現した美術作品を基に、作品には制作者の思いが詰まっていることや、形や色の工夫によって面白い表現ができることに気付かせる。 	<p>A: 正面の顔と横顔を組み合わせた形で立体感が出ている。自分の捉えた色をぬることで怒りの感情が伝わる。顔や食いしばった歯の組み合わせた描き方で「泣く」動きを表現している。</p> <p style="text-align: center;">(3つの視点)</p> <p>B: いらんだ目やゆがんだ口の形から不機嫌な感じが伝わる。服と周りの色の対比から孤独な感じがする。(2つの視点)</p>
<p>4 本時のまとめ</p> <p>学習を振り返る。</p>	<p>見る楽しさや表現する楽しさを共有しながら作品の見方を広げる活動のよさに気付かせる。</p>	